

「若狭の自然の中で 青空教室＜不登校児童生徒支援事業＞～東海市との連携」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
—	—	14名	14名

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・ 課題を抱える児童生徒が、若狭湾の雄大な自然と触れ合うことでエネルギーを充電し、参加者相互（参加者同士・ボランティア・スタッフ間）の交流を図り、チャレンジしようとする意欲を高める。
- ・ 課題を抱える児童生徒が自然体験活動を通して、より良い効果を得られるようなプログラム開発を行い、近隣青少年教育施設・教育委員会・学校等にプログラムの提供及び発信をしていく。

◆期日・期間

- ・ 平成29年11月11日（土）～平成29年11月12日（日） 1泊2日
 ※当初平成29年9月16日（土）～平成29年9月18日（月）の2泊3日で計画していたが、台風の接近により上記日程に変更。

◆連携機関

東海市教育委員会（適応指導教室：ほっと東海「横須賀教室」「上野教室」）

◆参加者分析

東海市適応指導教室（ほっと東海）に参加している児童生徒及び、適応指導教室（ほっと東海）スタッフ、東海市の大学生ボランティアスタッフと卒業生ボランティアの計32名の参加。

- ・ 児童・生徒と大学生ボランティアとの関係が築けるように、事前に東海市で顔合わせを行い当日に臨んでもらっている。
- ・ 当初予定であった9月の日程での開催ができなくなり、残念がる子どもたちが多かった。その分、11月の開催を楽しみにしていたようだ。

◆企画のポイント（日程・特色など）

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
十一月十一日（土）	東海市出発			自然の家到着	オリエンテーション	はじまりのつどい 屋食（お弁当）	※荒天のため、SK、SNK、SUP、磯釣り等の海活動は中止	選択活動① 若狭塗り箸 浜辺散策		夕食 野外炊飯		自由時間	入浴等	就寝	
十一月十二日（日）	起床・洗面	荷物の整理	朝のつどい	朝食 野外炊飯	片付け・清掃	※荒天のため、SK、SNK、SUP、磯釣り等の海活動は中止	選択活動② クラフト活動 浜辺散策	海浜自然センター見学		解散					

- ・ 「リフレッシュ&チャレンジ」という今年度のテーマにより、目の前に広がる海をはじめ、若狭の自然の中で子どもたちが心を開放し、自然体験を通して少しでも「できた」と思える

ことを増やしてもらえようプログラムを工夫することを心がけた。

- ・ 子どもたちの自立を促すため、子どもたちの興味・関心をもとに活動内容を「自分で決める」ことを大切に、選択活動ができる構成にした。
- ・ 普段できない野外活動を体験するとともに、協力すること、任された仕事を最後までやり切ることをねらって食事には野外炊飯を取り入れることとした。
- ・ 海型施設であること、また、子どもたちが海活動に大きな期待を寄せていることから海活動を中心にプログラムを組んだ。

◆運営のポイント

【活動プログラムについて】

- ・ 生活習慣が確立できていなかったり、集団で活動することが苦手だったりと個々が抱える課題もそれぞれのため、集団生活の基本的な線は大切にしつつも、子どもたちがゆったりとした気持ちで過ごせるよう、プログラムを詰め込まずゆとりがもてるよう配慮した。
- ・ 子どもたちは普段の生活において海と関わる機会が少ないため、海活動の内容を固定せず、いくつかの選択肢を準備しておいた。
- ・ 海況、気象状況が悪い場合でも、浜辺の散策など海と関われるようにした。

【安全管理について】

- ・ ペアやグループを作り、常に子どもたちとボランティアスタッフが一緒に活動を行えるようにした。

3. アンケート結果

(1) アンケート

<参加者>

項目	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	43%	50%	7%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	64%	21%	7%	0%
この事業の進め方はどうでしたか	36%	57%	7%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

(2) 参加者の声

- ・ みんなで作ったカレーやホットドックがおいしかった。
- ・ 昨年は楽しかったけど、今回はもっともっと楽しかった。
- ・ 海がきれいで心がいやされました。来年も来たいです。
- ・ 海に行けなくて少し残念だった。
- ・ スノーケリングとカッターとバスケットがしたいです。

4. 成果と課題

□ ねらいについて

- ・ 今年度は台風の影響に伴う日程変更や当日の悪天候により、子どもたちにとって楽しい海活動が思うようにできなかった。子どもたちは海活動を大変楽しみにしていただけに、その反動も大きいものがあった。
- ・ 子どもたちは海を目の前にして改めて自然の厳しさを感じることができたのではないかと。また、悪天候という思い通りにならないことを子どもたちは受け入れることができていたのではないだろうか。
- ・ 野外炊事では、割り当てられた役割を最後までやり切る、自分から進んで活動に取り組むなどの普段とは違う子どもたちの一面、頑張りを見ることができた。また、薪割り体験など自分たちが行った下準備がその後の活動の役に立つという経験を味わえたことがよかった。

□ ボランティアの関わりについて

- ・ すぐに子どもたちの名前をおぼえるなど、積極的にかかわりをもってくれるボランティアに対する評価が高かった。

- ・ 東海市ボランティアは事前にペアリングがされており、子どもたちも関係の築けているボランティアと過ごせることで安心している様子であった。
- 来年度に向けて
- ・ 子どもたちの抱える課題は様々で、今後も対象者理解に努めていきたい。
 - ・ 今年度は諸事情により、これまでの活動とは少し内容を変えたが、そうした活動内容でも子どもたちの頑張る姿がたくさん見られた。今後、新しい活動内容にもチャレンジできるとよいが、内容を精選するなどプログラムの詰め込みすぎには注意したい。

5. 活動の様子 写真（数枚）

